

通の話し声でも夜間は注意が必要だ。

国交省の調査では、マンショントラブルの対応として、管理組合

受

生活騒音

夜間は特に注意必要

ことしのベストドレッシング賞を受賞した報道写真の笹本恒子さん(80)は、しゃれな「肉食女子」だ。このほど東京都内でわかれた授賞式に、手製の装を羽織って登場。元氣秘訣は肉食と赤ワインと

錦織映画「たたら侍」に燃える

出雲市出身の映画監督、錦織良成さん(52)の最新作で、たたら製鉄をテーマにした映画「たたら侍」の撮影が近く、島根県を主な舞台に始まる。錦織監督の前作「渾身」に続き、主役を務める劇団EXILEの青柳翔さん(29)は「たたら製鉄を日本だけでなく、世界に知ってもらえる作品にしたい」と意気込む。

(聞き手は文化生活部・石川麻衣)

主役の青柳翔さんに聞く

—島根県での撮影は、隠岐りと、あの時の縁は今でも続の島での「渾身」に続いて2回ある。今回の撮影ではどのくらい楽しんでいるか。楽しみながら撮影しているか。楽しみながら撮影しているか。

「隠岐には1カ月滞在し、今回の映画は時代劇。演じるのは、たたら村下(技術者)の息子。侍を夢見たが、

島根県の皆さんが大変お世話になった。エキストラとして参加していたが、うれしかった。メールをもらって、仁多米をいただいた。時代劇は、舞台で演じた

ことはあるが、映像でやるのは初めて。現代劇より、しっかりと役作りをしないとけない。主人公の生まれや人柄、

立ち振る舞いや剣がどれくらい使えるのかを押さえていく必要がある。たたら製鉄に関する本を読んで勉強したい。後は監督や共演者と話し合っていく」



青柳翔さん—松江市殿町、島根県民会館
新作映画撮影の意気込みを語る

「本当に心強い。お互いよく知る間柄で、先輩の演技に対する姿勢も分かっているのだからやりやすい。10月末に出雲大社で行われた製作発表では『気合入るね』『絶対いい映画にしたいね』と言葉を交わした」

—どんな作品にしたいか。『HIROさんらの参加もあり、皆さんからの期待もいつも以上に大きく感じている。期待を裏切らないよう頑張りたい。日本人の美学を感じてもらい、日本人で良かったと思える作品にしたい」

日本人の美学感じてもらう